



「アンコール！アンコール！」

会場に彼女たちを待つ声がこだまする

（まずい…あいつら何をやってるんだ…!）

俺は慌てて彼女たちの控え室の扉を開いた

「一体どうしたんだ！
もうステージに上がる時間だぞ！」

「プロデューサー！
そ…それが…」

「さっちゃんの貞操帯が外れちゃって…!」

「なっ…!?」

星川…これは一体…」

彼女の名は星川桜

今日本で一番勢いのある
5人組アイドルユニット
『フェアリーガールズ』

そのセンターを務めるトップアイドルだ

しかし…そんな彼女に相応しくないものが
そこには付いていた

「お前…ふたなりだったのか!」

ぴんぽん



「隠していてごめんなさい…
プロデューサーさん」

「私…アイドル続けたくてずっと言えなかったんです…」

しかも…
何という立派なチンポだ…

彼女の怒張した男根は
完全にズル剥けており

ダンスでムレムレの
デカ金玉からは
ホカホカと
湯気が立ち昇っている

「あの…」

そんなにまじまじと見ないでください…」

「プロデューサーさんに見られてると思うと…
あふっ…」

くっくく
くっくく



「やあ…止まって…
おつきくならないでえ…」

かああ…

言葉とは裏腹に
彼女のチンポは小刻みに震えながら
徐々に体積を広げていく

可愛らしい星川からは想像し難い
はしたないチンポに
俺は目を奪われていたが…

「もういやあ…!!
私…もうアイドル辞めます!」

その言葉に我に返った

レシ
レシ

グ…
ググ…

「な…何を言っているんだ!」

「アイドル界の頂点に立つことがお前の夢だって…
そう言ってたじゃないか!」

やす…

「私もずっと隠していればいいと
思っていました…」

「でも…やっぱり
こんなチンポ振り回して
ステージになんて立てません!」

「しかし…
お前のファンは…」

「もういいんです!」

レシ
レシ

そう言うと

星川はおもむろにチンポをしごき始めた



「お…おい…」

「私のオチンポ…
ダンス中ずっと中途半端に擦れてたから…んっ」

「今だって本当は
オチンポシゴきたくて
堪らなかったんです！」

「頑張ってるメンバーの
汗の匂い嗅ぎながら…」

「チンポハメハメしたいよぉっって
思ってたんです！」

「そ…そんなこと思ってたのっ?」



「えへへっ…♥ごめんねみんな♥」

「でも…みんなが悪いんだよお…んんっ♥」

はぁ
はぁ

「みんながそんな
際どい衣装でえ…」

「おっぱいブルルンブルって…
お尻フリフリって…
私を誘惑するからあ…♥」

「チンポにきちやうのは
しょうがないのお…♥」

「さっちゃんが私たちのことそんな目で見てたなんて…」



「そうだよお…♡」

「合宿中だって…
特訓で汗が染み込んだみんなの下着盗んで
オナニーしてたの♡」

はあ
はあ

「カオリンの下着が特に
匂いがキツくてよかったなあ♡」

「えっ!! ちよ…!!
なに言ってるの!!」

「ゆららのおしっこ臭いぱんつはあ…
いつもクロッチちゅーちゅーして
汚れを落としてあげてたんだよお♡」

「うわあ…死んで下さい先輩」



「えっちゃんのにはいっつも陰毛が付いてたよ?」

「アイドルなんだからもうちょっと
気を使った方がいいと思うなあ」

はあ
はあ

「うう…ひどい…
ひどいよさっちゃん!」

「それに私…もう処女じゃないんだあ♥」

「前に麗ちゃんの私用マイクで
オマンコオナニーしてた時…
勢い余ってズッポリ入っちゃって♥」

「最っ低…」

「どうりでマイクから変な匂いすると思ったわ!」



レイちゃん



えっちゃん

「はあ…はあ…♡
思い出したらコーファンしてきちゃいました…」

「わあ…手の動き早くなってる…」

「桜…頭おかしいんじゃないの？」

「変態！さっちんの変態！」

「キモいです先輩」

「ああっ♡いい…♡
それいいっ♡」

「信頼してくれてたみんなから
罵られながらチンポ扱くの良すぎるよお♡」

「見てっ♡
さっちんのアイドル失格オナニーみんな見てえええっ♡」



「おおおおオオッ♡

金玉っ♡金玉から精液のぼってきましたっ♡」

みづっ♡

「私ね？イクときはこうやって
指でリング作って
先っぽゴシゴシするのが好きなんです♡」

「これをみんなの子宮口に
見立ててちゅぽちゅぽっ♡」

「毎日日替わりでみんなのおまんこ犯してたんですっ♡」



「おっほオオおおおオオ〜♥」

「出る出るっ♥」

濃いのでりゅううううううっ♥」

「終わったあああ〜♥♥♥」

「私のアイドル人生
終わったあああ〜♥♥♥」

「プロデューサーさん
ごめんなさいっ♥」

「汚チンポアイドル桜は今日…
アイドルを落第しまあああああす♥」



稀代のトップアイドル星川桜の射精は
メンバーを白く染め上げた

そして…

未だに鳴り響くアンコールは
彼女の下品な射精音にかき消された



「ちょ…ちよつと桜いい加減に…!」

見兼ねたリーダーの麗奈が桜を責めようとするが俺はそれを静止した

「星川お前…俺たちを失望させるためにわざとそんなこと言ってるんだろ」

「え…?」

「俺やメンバーのみんなに嫌われればアイドルを辞められると…そう思ってるんだろ!」

「ちょ…っ
プロデューサーさん? なにを…」

チ
セ
セ



「バカヤロー!!」

「んひいいいいい♥!?」
金玉ビンタめええええええーっ♥♥♥♥

「そんな浅はかな考えが
俺たちに通用するわけないだろう!」

「金玉イグ♥金玉でイグ♥
マゾ金玉からお漏らしザーメン
でりゅうううっ♥」

「お前が人一倍頑張ってたこと…
俺たちは誰よりも知っている!」

「こんなことで俺たちは失望なんてしないぞ!」

「プ…プロデューサーひゃん…」



「でも…私の勃起オチンポ…
全然治らないですし…」

「任せろ

俺がお前のチンポをプロデュースしてやる」

「真響^{まゆら}ちよつと手伝ってくれ」

「はい」

俺はそう言うと
メンバー最年少の真響に
あることを命じ
星川のマンコを開かせた

「ああ…♡ゆららの冷んやりした手きもひい…♡
何されちゃうのお…?」

「失礼します…先輩」



「はぎい!?!♥」

「私のでっぷり巨金玉が…オマンコの中にい…?!
ま…まさか…」

「そうだ…
今からお前の膣内にチンポを収納する!」

「む…無理無理っ!
無理です!
チンポ折れます!
勃起不全こわい!」

「確かにその勃起しきったチンポを
挿入するのは無理があるが…
大丈夫だ」

「真響!」

「わかりました」



「あああああーっ♡ はへっ♡ はへえっ♡」

「オマンコに金玉出し入れしちゃうめええええ！♡」

「自分のマン圧に
自分のキンタマ締め付けられちゃう♡」

「溜め込んだこっぴりザーメン
強制お漏らしちゃうよぉ♡」

「お漏らしさせるんです
先輩のデカチンポ萎えるまで
やめませんか」

「私達を辱めた報い…受けてもらいますよ」



「さっちゃん…これも使って？」

「あぁっ♡」

カオリンのぱんちゅが顔に…♡
スーハー♡スーハー♡」



「さっちゃん…一人でずっと
悩んでたんだね…」

「プロデューサーの言う通り…
私たちが辛かった時
助けてくれたのはさっちゃんだもん」

「だから…さっちゃんが喜んでくれるなら…
私の脱ぎたてパンツあげちゃうよ♡」

「はぁああああん♡くっさあ…♡
この匂いしゅきい♡」

「よ…よかったね(泣)」

「だ
ら
ま…」

「桜ちゃん…私のも使っていいよ…?」

「あっ♡あっ♡えっちゃん♡
えっちゃんが手コキしてくれてるうううう♡」

「ごめんなさい…
ライブで激しく動いたから
また陰毛が付いちゃってますけど…」

「いいよお♡
えっちゃんの陰毛…
カリーに絡まって
気持ちいからあ♡」

「はへっ♡はっへえ♡
カリーに溜まった洗い残りチンカスも
刮ぎ落とされちゃう♡」

「ああ…みんな優しすぎるよお♡
こんな私でもアイドルでいいのかなあ?」



「もう…素直になっちゃいなさいっ!」

「んオオオオッ♥アナルっ!♥
アナル肛門に麗ちゃんのマイクずっぽり入ったああああ♥」

「ほら…桜の後ろのお口は
こんなに正直じゃない♥」

「かわいい肛門から
『歌を歌いたいよ〜』って
本音が漏れてるわよ?」

「おホッ♥おホッ♥ほんとらあ♥
私やつぱり…アイドルでいたいれしゅっ♥」



「よしっ！それでこそトップアイドル星川桜だ！」

「次の射精でチンポを
マンコに収納するぞー！」

「はいっ！
えっちゃんお願いっ♡」

「私のチンポっ♡
私のオマンコに
突っ込んでええええっ♡」

「わかりました！」

「それじゃアイドルらしく
どっぴゅんしちゃって下さいっ♡」



「はいっ♥」

「私はさくら
さくらんぼっ♥」

「摘みたてフレッシュ
魅惑の果実っ♥」

「甘くなる果実がイイのおっ♥」

「練乳かけて召し上がれ♥♥♥」





「星川桜れええええーすっ☆」

「さっちゃんぽこと」

「ほおおおおおつ♡
イグイグっ♡

イぎましゅーん　♡

[「

あへ

は、

「セルフおまんこでイグっ♡」

「さっちゃんのマンコが
さっちゃんのチンポに犯されて
イクうううううううう！」

ポン

大ボネッ

「自分に種付けしながら
イッグうううううううう
うううううううううう」
♡



「す…すごいぞ星川！
やっぱりお前は最高のアイドルだ！」



会場からは未だに
彼女たちを待つ声が聞こえていた

「行こう…
みんなが待ってる！」

ちほ
ちほ

「はーっー」

やっしん♡

おっ
わあ…

「フェアリーガールズ〜！Fly on！」











